

華中調查速報第一八三號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯） 民國三十年五月二十一日 第一七七號

興亞院華中連絡部

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に關するものは原則として全部之を輯録する方針をもち特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるものゝみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

(中華民國三十年三月二十四日制定公布
中華民國三十年五月十六日修正公布)

第一條 國民政府ハ積極的ニ各省市ノ清鄉(匪賊及不良分子ノ驅逐)事項ヲ處理スル爲特ニ清鄉委員會ヲ設ケ最高指導機關ト爲ス

第二條 國民政府ハ清鄉委員會ニ權限ヲ授ケ清鄉區内ノ軍政事項ニ關シ直ニ法規ノ制定命令ノ發布又ハ行政院及軍事委員會ニ諮詢シテ各別ニ之ヲ執行スルコトヲ得

第三條 清鄉委員會ニ委員長一人ヲ置キ軍事委員會委員長之ヲ兼任ス

副委員長二人ヲ置キ軍事委員會常務委員一人及行政院副院長委員十人乃至十六人ヲ置キ軍政ニ關係スル各部會長官之ヲ兼

第四條 本會ノ處理及審議事項左ノ如シ

- 一 清鄉軍政法規ノ制定ニ關スル事項
- 二 清鄉施設ノ各方面聯絡ニ關スル事項
- 三 清鄉區域ノ劃定ニ關スル事項
- 四 清鄉ノ軍・警部隊ノ指定及派遣ニ關スル事項
- 五 招撫(亂民ヲ説諭シテ歸順セシム)ニ關スル事項
- 六 軍・警部隊ノ給與ニ關スル事項
- 七 保安隊警察ノ設置及保甲ノ編制組織ニ關スル事項
- 八 清鄉區内ノ特種教育及民衆訓練ニ關スル事項
- 九 礮堡(石室ヲ以テ城堡トナス)建築ニ關スル事項
- 十 交通・通信・運輸ニ關スル事項
- 十一 匪賊區域ノ封鎖ニ關スル事項

十二 清郷区内ノ経済統制及經濟建設ニ關スル事項
十三 清郷軍政方面ノ人事調整ニ關スル事項
十四 清郷ノ實施及臨時各費ノ計畫措置竝ニ豫算決算ノ審査ニ關スル事項
十五 兵器、彈藥、器材、糧秣ノ補給及工事構築等ニ關スル事項

第五 條 委員長ヨリ審議スベク交付シタル事項
十六 條 清郷区内ノ政務ヲ執行シ及保安隊竝ニ警察ヲ統率指揮スル爲分區シテ清郷督察專員公署ヲ設置シ主持シテ之ヲ處理スルコトヲ得

第六 條 清郷督察專員公署ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム
第七 條 清郷区内軍隊ノ派遣指揮等ノ事項ヲ處理スル爲軍事委員會參謀圖ヲ設ケ之ヲ處理スルコトヲ得

第七 條 軍事委員會參謀圖ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム
第八 條 本會ニ秘書長一人ヲ置キ委員長ノ命及副委員長ノ指導ヲ承ケ會内ノ事務ヲ處理ス

第八 條 副秘書長一人ヲ置キ之ヲ補助ス
第九 條 本會ニ左記ノ各處ヲ設ク
一 第一處ハ總務事項ヲ處理ス
二 第二處ハ政務事項ヲ處理ス
三 第三處ハ軍務事項ヲ處理ス
四 第四處ハ社會福利事項ヲ處理ス
各處ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム
第十 條 本會ニ必要ナルトキハ各種委員會ヲ設クルコトヲ得
第十一 條 本大綱ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



華中調查速報第一八四號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯）
民國三十年四月二十八日 第一六七號

興亞院華中連絡部



發送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、廈門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長

在上海、南京、漢口、各日本總領事

杭州、九江、蘇州、蕪湖、各副領事

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

登集團參謀長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、南通、蚌埠、安慶、無錫、特務機關長

在南京大使館

各

各

各

各

各

各

各

各

各

九〇

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

支那派遣軍總司令部報道部長

漢口陸軍特務部長

中支那派遣憲兵隊司令官

上海憲兵隊長

支那方面艦隊參謀長

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部

漢口海軍特務部長

支那方面艦隊報道部長

上海方面海軍根據地隊司令官

上海

東亞研究所

東京

滿鐵上海事務所

外務省大臣官房文書課

中華民國法制研究會

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

各

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院・部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるものゝみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

行政院文物保管委員會組織條例

(中華民國三十年四月二十二日
第一百二十六號指令「准豫備案」)

- 第一條 文物保管委員會ハ行政院ニ直屬シ國民政府ノ保管スベク指定セル圖書・記錄・標本・古物・天文氣象儀器(天体ノ運行ヲ測量スル器械)及文化ト關係アル建築物等ノ事項ヲ掌理ス
- 第二條 文物保管委員會ニ委員長一人、委員八人ヲ置キ行政院ヨリ之ヲ任命ス
- 第三條 文物保管委員會ハ毎月會議ヲ一回舉行シ委員長之ヲ召集ス會議ノトキハ委員長ヲ主席トス其ノ議事細則ハ別ニ之ヲ定ム

1

- 第四條 文物保管委員會ニ左記ノ一處及三專門委員會ヲ設ク

2

- (一) 秘書處
- (二) 圖書專門委員會
- (三) 博物專門委員會
- (四) 天文氣象專門委員會
- 第五條 秘書處ノ職掌左ノ如シ
- (一) 文書ノ受發、起案及保管ニ關スル事項
- (二) 官印ノ保管ニ關スル事項
- (三) 庶務會計ニ關スル事項
- (四) 會議ニ關スル事項
- (五) 公告ノ審查ニ關スル事項
- (六) 工事修繕ニ關スル事項
- (七) 警衛ノ檢查ニ關スル事項

第六條

(八) 其ノ他各專門委員會ニ屬セザル事項

圖書專門委員會ノ職掌左ノ如シ

(一) 圖書及記録ノ分類、編目(目錄編製)ニ關スル事項

(二) 圖書及記録ノ收藏ニ關スル事項

(三) 圖書及記録ノ閱覽ニ關スル事項

(四) 珍本圖書ノ影印(寫眞版寫シ)ニ關スル事項

(五) 圖書、版本(印刷シタ書物)ノ校訂ニ關スル事項

(六) 圖書ノ徵集、交換ニ關スル事項

(七) 史料ニ關係アル記録ノ編目(目錄編製)ニ關スル事項

第七條

博物專門委員會ノ職掌左ノ如シ

(一) 標本及古物ノ分類、編目ニ關スル事項

(二) 標本及古物ノ保管貯藏ニ關スル事項

(三) 標本及古物ノ撮影傳布ニ關スル事項

(四) 標本及古物ノ調査研究ニ關スル事項

(五) 標本及古物ノ陳列展覽ニ關スル事項

(六) 標本ノ採集、調製、交換ニ關スル事項

(七) 古物ノ登録、公告ニ關スル事項

(八) 古物ノ鑑定、傳揚(古碑ナドヲ石ドリニシテ傳播スルコト)出版ニ關スル事項

第八條 天文氣象專門委員會ノ職掌左ノ如シ

(一) 天文氣象ノ觀測研究ニ關スル事項

(二) 天文氣象ノ報告ニ關スル事項

(三) 天文氣象儀器ノ保管及收藏ニ關スル事項

(四) 天文氣象儀器ノ裝置、修整ニ關スル事項

第九條 秘書處ニ處長一人ヲ置ク委員長ヲ輔佐シ本處ノ事務ヲ掌

理ス秘書一人ハ處務ヲ補助ス

第十條 圖書、博物、天文氣象ノ三專門委員會ニ各主任委員一人

ヲ置キ本會委員ヨリ之ヲ兼任ス委員若干人ハ委員長之ヲ聘任

ス

前項ノ三專門委員會ノ處務規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 秘書處及三專門委員會ハ分科シテ事務ヲ處理ス

其ノ定員及辦事細則ハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ職員ハ專任ヲ除クノ外凡ソ轉任ニ屬スル者ハ別ニ俸給

ヲ支給セズ但シ適宜ニ臨時辦公費ヲ支給スルコトヲ得

第十二條 文物保管委員會ハ國內外ノ専門家ヲ招聘シテ顧問ト爲ス

コトヲ得

第十三條 文物保管委員會ハ文書ノ繕書及其ノ他ノ事務ニ因リ適宜

職員ヲ置クコトヲ得

第十四條 文物保管委員會ハ其ノ處理シタル事項ヲ報告、統計ニ編

製シテ毎年一回公告スベシ

第十五條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

華中調查速報第一八五號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯）
民國三十年四月三十日 第一六八號

興亞院華中連絡部



發送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、厦門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、濟南、南京各派遣員事務所長

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

登集團參謀長

支那派遣軍總司令部報道部長

中支那派遣憲兵隊司令官

上海憲兵隊長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長

各 各

九〇

部 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部

漢口陸軍特務部長

支那方面艦隊參謀長

上海方面海軍根據地隊司令官

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部長

支那方面艦隊報道部長

漢口海軍特務部長

在南京大使館

在上海、南京、漢口、各日本總領事

杭州、九江、蘇州、蕪湖、各副領事

外務省大臣官房文書課

海軍上海事務所

東亞研究所 上海、東京、海

中華民國法制研究會

各 各

部 部 部 部 部 部 部 部 部 部 部

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるものゝみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

目 次

一、勞資爭議處理法	頁
二、警察官任用條例	一七

勞資爭議處理法

(中華民國三十年四月二十六日修正公布)

第一章 總 則

- 第一條 本法ハ雇主及工人團體又ハ工人十五人以上ノ雇傭條件ノ維持又ハ變更ニ關スル爭議發生シタルトキニ之ヲ適用ス
- 第二條 本法ニ稱スル主管行政官署トハ中央ニ在リテハ社會部トシ省ニ在リテハ省政府トシ市ニ在リテハ市政府トシ縣ニ在リテハ縣政府トシ國營事業ニ在リテハ其ノ主管機關トス
- 第三條 主管行政官署ハ勞働爭議發生シタル場合爭議當事者ノ一方又ハ双方ノ請求ヲ經テ調停委員會ヲ召集シテ之ヲ調解スベシ若主管行政官署ニ於テ調解ニ付スベキ必要アリト認メタルトキハ當事者ノ請求ナキト雖モ亦同シ調解成立シタルトキハ爭議當事

者間ノ契約ト看做ス若當事者ノ一方ガ工會ナルトキハ爭議當事者間ノ團體協約ト看做ス

第 四 條

左記ノ各事業ニ勞資爭議發生シ其ノ事件ガ調解ヲ經タルモ結果ナキトキハ仲裁委員會ニ付シテ仲裁スベシ

- 一 公衆ノ需用ニ供スル水道、電氣又ハ瓦斯事業
- 二 公衆ノ用ニ供スル郵便、電信、電話、鐵道、電車、海運及公共自動車事業

第 五 條

前條以外ノ勞資爭議事件ニシテ調解シタルモ結果ナキトキハ當事者雙方ノ請求ヲ經テ仲裁委員會ニ付シテ之ヲ仲裁スベシ但シ行政官署ハ爭議ノ情勢重大ニ因リ又ハ一月以上延長シタルモ尙未ダ解決セズ之ガ仲裁ニ付スベキ必要アリト認メタルトキハ爭議當事者ノ請求ナキト雖モ亦該項ノ爭議ヲ仲裁委員會ニ交付シテ之ヲ仲裁スルコトヲ得

第六條 勞資ノ爭議事件ニ付未ダ調解手續ヲ經ザルトキハ之ヲ仲裁
スルコトヲ得ズ但シ爭議當事者双方ノ請求ニ因リ直ニ仲裁ニ付
シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 爭議當事者ハ仲裁委員會ノ裁決ニ對シ不服ノ申立ヲ爲スコ
トヲ得ズ

前項ノ裁決ハ爭議當事者間ノ契約ト看做ス若當事者ノ一方ガ工
會ナルトキハ爭議當事者間ノ團體協約ト看做ス

第二章 勞資爭議ノ處理機關

第一節 調解機關

第八條 勞資爭議ノ調解ハ調解委員會ニ於テ之ヲ處理ス

第九條 調解委員會ハ左記ノ代表ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 主管行政官署ハ代表一人又ハ三人ヲ派遣ス
- 二 爭議當事者双方ハ各代表二人ヲ派遣ス

上記第一項ノ代表ハ主管行政官署ノ職員ニ非ザル者ヲ以テ選リ
ト爲ス

第十條 勞資爭議ハ第三條第一項ノ規定ニ依リ調解ニ付スベキ場合
其ノ爭議當事者ハ主管行政官署ノ通知ヲ接受シタル三日内ニ各
自選定又ハ代表ヲ派遣スルコトヲ要シ且其ノ代表ノ姓名、住所
ヲ報告スベシ

主管行政官署ハ必要アリト認メタルトキハ前項ノ期限ヲ適宜延
長スルコトヲ得之ガ期限經過シタルモ未ダ其ノ代表ノ姓名、住
所ヲ報告セザルトキハ主管行政官署ハ職權ニ依リ代リテ之ヲ指
定スルコトヲ得

第十一條 調解委員會委員ノ人選決定シタル後ハ主管行政官署ハ速カ
ニ之ヲ召集開會スルコトヲ要シ且主管行政官署ノ派遣シタル代
表ヲ以テ主席ト爲ス已ニ調解委員會ヲ召集開會シタルモ委員ガ

出席ヲ拒絶シタル爲調解ヲ進行スル能ハザルトキハ調解不成立ト看做ス

第十二條 調解委員會ノ主席ハ各該主管行政官署ノ職員ヲ調用（轉任セシム）シテ記録、編纂、起案及其ノ他一切ノ事務ヲ處理スルコトヲ得

第十三條 同一ノ勞資爭議事件ニシテ該主管行政官署ニ於テ二個以上アル場合若各該主管行政官署方同一省區ニ在ルトキハ第九條第一項第一款ノ主管行政官署ハ省政府ヨリ之ヲ指定ス必要アルトキハ第九條第一款ノ代表ハ且該省政府ヨリ之ヲ任命スルコトヲ得

同一ノ勞資爭議事件方同一省區ニ在ラザルトキハ第九條第一款第一款ノ主管行政官署ハ社會部ヨリ之ヲ指定ス若社會部ガ必要アリト認めタルトキハ第九條第一款第一款ノ代表ハ該部ヨリ之

ヲ任命スルコトヲ得

前二項ノ事情ガ國營事業ナルトキハ其ノ主管機關ヨリ之ヲ指定又ハ任命ス

第二節 仲裁機關

第十四條 勞資爭議ノ仲裁ハ仲裁委員會ニ於テ之ヲ處理ス

第十五條 仲裁委員會ハ左記人員ヲ以テ之ヲ組織ス

- 一 主管行政官署ハ代表一人ヲ派遣ス
- 二 社會運動指導委員會省市分會ハ代表一人ヲ派遣ス
- 三 地方法院ハ代表一人ヲ派遣ス
- 四 爭議者ト直接利害關係ヲ有セザル勞方及資方ノ代表各一人

第十六條 省政府又ハ行政院直轄市ノ市政府ハ其ノ所轄ノ區域内ニ於テ二年毎ニ工人團體又ハ雇主團體ニ命ジテ各仲裁委員ト爲ルベ

キ者二十四人乃至四十八人ヲ選定シ名簿ヲ作成申請シ許可ヲ受ケタル後社會部ニ記録セシムベシ
社會部ハ二年毎ニ國營事業ノ工人團體又ハ各別ニ各該事業ノ直接主管機關ニ命ジテ各仲裁委員ト爲ルベキ者二十四人乃至四十八人ヲ選定シ名簿ヲ作成シテ記録セシムベシ
仲裁事件アル場合前條第四款ノ代表ハ主管行政官署ヨリ前二項ノ名簿中ニ就キ各別ニ爭議ト直接利害關係ナキ者ヲ指定シテ之ニ充ツ

第一項及第二項ノ仲裁委員ノ選定方法ハ社會部ヨリ之ヲ定ム且關係アル各部ニ之ヲ通知ス

第十七條 會テ調解委員會ノ委員ニ任ゼラレタル者ハ同一事件ノ仲裁委員ニ爲ルコトヲ得ズ

第十八條 仲裁委員會ハ主管行政官署ヨリ之ヲ召集ス召集機關ノ代表

ヲ以テ主席ト爲ス但シ第二十條規定ノ仲裁委員會ハ社會部ノ派遣シタル代表ヲ以テ主席ト爲ス

第十九條 仲裁委員會ノ主席ハ其ノ所屬官署又ハ其ノ所在地ノ地方法院ノ職員ヲ轉任セシメテ記録、編纂、起案及其ノ他一切ノ事務ヲ處理スルコトヲ得

第二十條 同一ノ勞資爭議事件ニシテ其ノ範圍ガ一省ニ限ラザルトキハ國營事業ヲ除クノ外第十五條第一款ノ代表ハ社會部ヨリ之ヲ任命シ第四款ノ代表ハ社會部ヨリ相關係スル各省ノ仲裁委員名簿ニ就キ之ヲ任命ス

第三章 勞資爭議ノ處理手續

第一節 調解手續（調停和解手續）

第二十一條 爭議當事者ガ調解ヲ申請スルトキハ主管行政官署ニ對シ調解申請書ヲ提出スベシ

第二十二條

争議當事者ノ左記ノ各事項ヲ明瞭スベシ

- 一 當事者ノ姓名、職業、住所又ハ商號、工場名、若シテ団体ナルトキハ其ノ名稱及事務所ノ所在地
- 二 争議事件ト關係アル勞工人數
- 三 争執ノ要點

第二十三條

未ダ争議當事者ノ申請ヲ經ズニ主管行政官署ヨリ調解ニ

提出シタルトキハ該行政官署ハ其ノ調解ニ付スベキ事項ヲ書面ヲ以テ双方ノ當事者ニ通知スベシ

第二十四條

調解委員會ハ召集後二日以内ニ左記ノ各項ノ調査ヲ開始ス

- 一 争議事件ノ内容
- 二 争議當事者ノ提出シタル書狀及其ノ他關係アル事件
- 三 争議當事者双方ノ現在状況

四 其ノ他調査スベキ事項

第二十五條

調査期間ハ特別事情アルニ非ザレバ七日ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十六條

調解委員會ハ關係スル工場又ハ商店等ニ對シ調査又ハ詢問スルコトヲ得

第二十七條

調解委員會ハ調査シ得タル秘書事項ヲ漏洩スルコトヲ得ズ

第二十八條

調解委員ハ調査ヲ完了シタル後ハ二日以内ニ調解ノ決定ヲ爲スベシ但シ特別事情アリ又ハ争議當事者双方延期ノ同意アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條

調解委員會ノ調解ニ付争議當事者双方ノ代表ノ同意ヲ經テ調解調査ニ署名シタルトキハ調解成立ト爲ス調解委員會ハ

其ノ調解シタル結果ヲ主管行政官署ニ報告スベシ

第二節 仲裁手續

第三十條 爭議當事者ガ仲裁ヲ申請スルトキハ主管行政官署ニ向ヒ仲裁申請書ヲ提出スベシ

主管行政官署ガ前項ノ文書ヲ收受シタルトキハ速カニ該行政官署ノ所在地又ハ爭議事件ノ所在地ニ於テ仲裁委員會ヲ召集スベシ

第三十一條 爭議當事者ニ付調解不成立ニ因リ仲裁ニ付スベク申請シタルトキハ其ノ申請書ニ左記ノ各事項ヲ明記スベシ

- 一 當事者ノ姓名、職業、住所又ハ商號、若團體ナルトキハ其ノ名稱及事務所々在地
- 二 調解不成立ノ理由
- 三 請求ノ目的

第三十二條 爭議當事者双方ノ申請ニ因リ仲裁ニ付シタルトキハ其ノ申請書ニ第二十二條ニ掲グル事項ヲ明記スベシ

第三十三條 第二十三條乃至第二十八條ノ規定ハ仲裁手續ニ之ヲ準用ス

第三十四條 仲裁委員會ノ仲裁ハ全体委員ノ合議ヲ以テ之ヲ行ヒ裁決ノ場合ハ多數決トス

仲裁委員會ハ前項ノ仲裁ヲ二日以内ニ仲裁書ヲ作成シテ双方ノ當事者ニ之ヲ送達シ且主管行政官署ニ送付シテ記録セシムベシ

第三十五條 爭議當事者ハ仲裁手續ノ如何ナル程度ニナルヲ問ハズ總テ和解ヲ成立スルコトヲ得但シ其ノ和解條件ヲ仲裁委員會ニ報告スルコトヲ得

第四章 爭議當事者ノ行爲制限

第三十六條 第四條ニ掲グル各事業ノ雇主又ハ工人ハ如何ナル勞資ノ爭議ニ因ル停業又ハ罷工ヲ爲スコトヲ得ズ

其ノ他工商業ノ雇主又ハ工人ニシテ其ノ争議ガ調解期間内ニ在
リ又ハ已ニ仲裁ニ付シタルトキハ停業又ハ罷工ヲ爲スコトヲ得
ズ

雇主ハ調解又ハ仲裁期限内ニ於テハ工人ヲ免職スルコトヲ得ズ
調解又ハ仲裁ヲ開始スル期日ハ主管行政官署ノ争議當事者ニ通
知スル日ヨリ之ヲ起算ス

第三十七條

工人又ハ工人団体ハ左記ノ行爲アルコトヲ得ズ
一 商店又ハ工場ノ閉鎖

二 商店、工場ノ貨物、器具ヲ擅ニ竊取又ハ毀損

三 他人ノ罷工強迫

第五章 罰 則

第三十八條

争議當事者ハ第三條第二項、第七條第二項ノ規定ニ對シテ
ハ争議當事者間ノ契約決定又ハ裁決ト看做ス
之ガ履行セザル者アルトキハ二百元以下ノ罰金又ハ四十日以下

ノ拘役ニ處ス

前項ノ事情ハ争議當事者ニ於テ別ニ民事法規ニ依リ法院ニ向ヒ
強制執行ヲ請求スルコトヲ得

第三十九條

争議當事者方第三十六條及第三十七條ノ規定ニ違反シタル
トキハ主管行政官署及調解委員會又ハ仲裁委員會ハ隨時之ヲ制
止スルコトヲ得之ガ制止ニ服セザルトキハ二百元以下ノ罰金ニ

處スルコトヲ得若其ノ行爲ガ已ニ刑法ヲ犯シアルトキハ仍刑法
ニ依リ之ヲ處斷ス

ニ依リ之ヲ處斷ス

第四十條

左記事情ノ一アルトキハ一百元以下ノ罰金ニ處スルコトヲ
得

一 第二十五條ノ規定ニ違反シ故ナク會ニ出頭セズ又ハ説明
書ヲ提出セザル者

二 第二十七條ノ規定ニ違反シタル者

前項第二款事情が刑法上ノ犯罪行為ヲ構成スルトキハ仍刑法ニ依リ之ヲ處断ス

第四十一條 左記行為ノ一アルトキハ一百元以下ノ罰金ニ處ス但シ證人ガ虚偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ刑法ノ偽證罪ニ依リ之ヲ處罰ス

一 第二十五條ニ規定セル事情ニ對シ虚偽ノ説明ヲ爲シタル者

二 第二十六條ニ規定セル事情ニ對シ故ナク調査ノ回答ヲ拒絶シ又ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第四十二條 本章各條ニ規定セル處罰スベキ行為アルトキハ主管行政官署及調解委員會又ハ仲裁委員會ヨリ事由ヲ聲明シ該管法院ニ移送シテ審理ヲ受クベシ該管法院ハ特別事情アルヲ除クノ外文書ノ接收後二十日以内ニハ裁判ヲ宣告スベシ

第六章 附 則

第四十三條 省政府又ハ行政院直轄市ノ市政府ハ必要アルトキハ本法施行細則ヲ作成シ國民政府ニ申請シテ之ヲ制定スルコトヲ得

第四十四條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

警察官任用條例

(中華民國三十年四月二十六日修正公布)

第一條 警察官ノ任用ハ本條例ニ依リ之ヲ行フ

第二條 簡任警察官ハ左記各項資格ノ一アル者ニ就キ之ヲ任用スベシ

一 曾テ簡任警察官又ハ專ラ警察行政事務ヲ處理スル簡任人員ニ任ゼラレ之ガ選拔審査又ハ成績考査ヲ經テ合格シタル者

二 曾テ最高級薦任警察官又ハ專ラ警察行政事務ヲ處理スル最高級薦任人員ニ三年以上任ゼラレ之ガ選拔審査又ハ成績考査ヲ經テ合格シタル者

三 國內又ハ認可ノ國外警官學校ヲ卒業シ曾テ最高級薦任警

察官又ハ專ラ警察行政事務ノ最高級薦任官ニ一年以上任

ゼラレ之ガ選拔審査又ハ成績考査ヲ經テ合格シタル者

四 國內又ハ認可ノ國外警官學校ヲ卒業シ本條例ノ施行前ニ於テ會テ薦任警察官又ハ專ラ警察行政事務ノ薦任官ニ二

年以上任ゼラレ成績卓著證明ヲ經テ事實ニ屬スル者

五 教育部認可ノ國內外大學ノ法律又ハ政治學系ヲ卒業シ曾テ最高級薦任警察官又ハ專ラ警察行政事務ヲ處理スル最

高級薦任官ニ二年以上任ゼラレ之ガ選拔審査又ハ成績考

査ヲ經テ合格シタル者

六 教育部認可ノ國內外大學ノ法律又ハ政治學系ヲ卒業シ本

條例ノ施行前ニ於テ會テ薦任警察官又ハ專ラ警察行政事

務ヲ處理スル薦任官ニ二年以上任ゼラレ成績卓著證明ヲ

經テ事實ニ屬スル者

第三條

- 七 國內又ハ認可ノ國外軍事大學ヲ卒業シ曾テ最高級薦任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル最高級薦任官ニ二年以上任ゼラレ之ガ選拔審査又ハ成績考査ヲ經テ合格シタル者
 - 八 國內又ハ認可ノ國外軍事大學ヲ卒業シ本條例ノ施行前曾テ薦任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル薦任官ニ三年以上任ゼラレ成績卓著證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
 - 九 國家ニ對シ特殊勳勞アリ又ハ革命ニ十年以上盡力シ且警察ノ學識經驗ニ富ミ證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
- 薦任警察官ハ左記各項資格ノ一アル者ニ就キ之ヲ任用スベシ
- 一 高等試験、警察行政人員試験ヲ經テ合格シタル者
 - 二 曾テ薦任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル薦任官

- 三 曾テ最高級委任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル最高級委任官ニ三年以上任ゼラレ選拔審査又ハ成績考査ヲ經テ合格シタル者
- 四 國內又ハ認可ノ國外警官學校ヲ卒業シ曾テ最高級委任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル最高級委任官ニ一年以上任ゼラレ選拔審査又ハ成績考査ヲ經テ合格シタル者
- 五 國內又ハ認可ノ國外警官學校ヲ卒業シ本條例ノ施行前ニ於テ曾テ警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル委任官ニ二年以上任ゼラレ成績卓著證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
- 六 教育部認可ノ國內外大學ノ法律又ハ政治學系ヲ卒業シ曾テ最高級委任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル最高級委任官ニ三年以上任ゼラレ選拔審査又ハ成績考査ヲ

七 經テ合格シタル者
教育部認可ノ國內外大學ノ法律又ハ政治學系ヲ卒業シ本
條例ノ旅行前ニ於テ曾テ委任警察官又ハ專ラ警察行政事
務ノ委任官ニ三年以上上任セラレ成績卓著證明ヲ經テ事實
ニ屬スル者

八 國內又ハ認可ノ國外軍事專門學校又ハ軍官學校ヲ卒業シ
曾テ最高級委任警察官又ハ專ラ警察行政事務ヲ處理スル
最高級委任官ニ三年以上上任セラレ選拔審査又ハ成績考査
ヲ經テ合格シタル者

九 國內又ハ認可ノ國外軍事專門學校若ハ軍官學校ヲ卒業シ
本條例ノ旅行前ニ於テ曾テ委任警察官又ハ專ラ警察行政
事務ヲ處理スル委任官ニ三年以上上任セラレ成績卓著證明
ヲ經テ事實ニ屬スル者

十 國內又ハ認可ノ國外警官學校ヲ卒業シ曾テ委任警察官又
ハ專ラ警察行政事務ヲ處理スル委任官ニ一年以上上任セラ
レ且警察學術ニ關スル專門著作アリ審査ヲ經テ合格シタ
ル者

十一 教育部認可ノ國內外大學又ハ高等專門學校ノ法律又ハ政
治學系ヲ卒業シ曾テ最高級委任警察官又ハ專ラ警察行政
事務ヲ處理スル最高級委任官ニ一年以上上任セラレ且警察
學術ニ關スル專門著作アリ審査ヲ經テ合格シタル者

十二 國內又ハ認可ノ國外軍事專門學校若ハ軍官學校ヲ卒業シ
曾テ最高級委任警察官又ハ專ラ警察行政事務ヲ處理スル
最高級委任官ニ一年以上上任セラレ且警察學術ニ關スル專
門著作アリ審査ヲ經テ合格シタル者

十三 國家ニ對シ勳勞アリ又ハ革命ニ七年以上盡力シ且警察ノ

第四條

- 一 學識經驗アリ證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
- 二 委任警察官ハ左記各項資格ノ一アル者ニ就キ之ヲ任命スベシ
- 三 普通試験、警察行政人員試験ヲ經テ合格シタル者
- 四 國內又ハ認可ノ國外警官學校ヲ卒業シタル者
- 五 自テ委任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル委任官ニ任セラレ選拔審査又ハ成績考査ヲ經テ合格シタル者
- 六 教育部認可ノ國內外ノ法律又ハ政治專科以上ノ學校ヲ卒業シ本條例ノ施行前ニ於テ曾テ委任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル委任官ニ任セラレタル者
- 七 國內又ハ認可ノ國外軍事專門學校若ハ軍官學校ヲ卒業シ本條例ノ施行前曾テ委任警察官又ハ専ラ警察行政事務ヲ處理スル委任官ニ任セラレタル者

第五條

- 一 本條例ノ施行前ニ於テ曾テ委任警察官又ハ専ラ警察行政事務ノ委任官ニ三年以上任セラレ成績優良證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
- 二 認可ノ中等以上ノ學校ヲ卒業シ曾テ警察機關ノ職員ニ二年以上任セラレ成績優良證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
- 三 認可ノ警士教練所、警察訓練所又ハ長務補習所ヲ卒業シ現在署長ニ二年以上任セラレ成績優良證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
- 四 現在警察機關ノ職員又ハ警官ニ任セラレ本條例ノ施行前曾テ警察機關ノ職員又ハ署長ニ二年以上任セラレ成績優良證明ヲ經テ事實ニ屬スル者
- 五 曾テ革命ニ五年以上盡力シ且警察ノ學識經驗アル者
- 六 警察機關内ノ保安警察隊長ハ第三條第四條ニ依リ之ヲ任

- 用スルヲ除クノ外正式ノ軍官學校ヲ卒業シ且警察ノ學識アル者ニ就キ之ヲ任用スルコトヲ得但シ其ノ他ノ警察官ヲ轉任スルトキハ第三條第八款、第九款、第四條第五款ニ依リ之ヲ處理スベシ
- 第六條 各警察機關ノ警察人員及普通ノ事務人員醫師、會計、庶務及其ノ他特定事務ヲ處理スル人員等ノ如キハ專門技術人員ヲ任用シ又ハ該項事務ヲ處理スル經驗アル者ヲ之ニ充ツルコトヲ得但シ其ノ他ノ警察官ヲ轉任スルコトヲ得ズ
- 第七條 特種警察機關ノ警察官任用ハ本條例ノ規定ヲ準用ス
- 第八條 本條例ニ未ダ規定セザル事項ハ公務員任用法ノ規定ヲ適用ス
- 第九條 本條例施行細則ハ別ニ之ヲ定ム
- 第十條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

章中調查速報第一八六號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯） 民國三十年五月七日 第一七一號

興亞院華中連絡部



送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、厦門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

登集國參謀長

支那派遣軍總司令部報道部長

中文那派遣憲兵隊司令官

上海憲兵隊長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長

九〇

部

各

部

各

部

各

部

各

部

各

部

各

部

漢口陸軍特務部長

支那方面艦隊參謀長

上海方面海軍根據地隊司令官

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部長

支那方面艦隊報道部長

漢口海軍特務部長

在南京大使館

在上海、南京、漢口、各日本總領事

杭州、九江、蘇州、蕪湖、各副領事

外務省大臣官房文書課

海軍上海事務所

東亞研究所

中華民國法制研究會

上海、東京

各

部

各

部

各

部

各

部

各

部

各

部

各

部

各

部

各

部

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるものゝみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

公務員 年金條例施行細則補充辦法

(國民政府三十年五月一日「准予備案」)

第一

條 公務員ノ年金給與ハ公務員 年金條例ニ依リ又ハ法律ニ別段ノ規定アルヲ除クノ外本補充辦法ヲ適用ス

第二

條 公務員 年金條例ニ依リ 年金ヲ申請スルモノニシテ若非常事故ニ因リ本人又ハ死亡公務員ノ歷任シタル任命狀ヲ遺失シタルトキハ左記ノ一ノ證明文書ヲ提出スルコトヲ要ス

(一) 原官署ノ公文證明

(二) 年金申請又ハ死亡公務員ノ最終ノ在職官署ノ現任主管長官ノ證明書

(三) 關係アル公文書

(四) 公報、職員錄又ハ其ノ他證明ニ資スルニ足ル刊行物

1

第三

右記第二項ノ證明書ヲ提出シタルトキハ銓叙部育方司ヨリ之ヲ事實ナルモノト證明シタルモノニ限り始テ有効トス

條 本補充辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2

華中調查速報第一八七號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯） 民國三十年五月九日 第一七二號

興亞院華中連絡部

發送先

本院	九〇
華北連絡部次長	二
蒙疆、厦門各連絡部長官	二
青島出張所長	各
漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長	各
陸軍參謀次長	一
支那派遣軍總參謀長	一
登集國參謀長	一
支那派遣軍總司令部報道部長	一
中支那派遣憲兵隊司令官	一
上海憲兵隊長	一
特務機關本部長	一
上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長	各

漢口陸軍特務部長	一
支那方面艦隊參謀長	一
上海方面海軍根據地隊司令官	一
海軍上海駐在武官長	一
第一海軍經理部長	一
支那方面艦隊報道部長	一
漢口海軍特務部長	一
在南京大使館	一
在上海、南京、漢口、各日本總領事	各
杭州、九江、蘇州、蕪湖、各副領事	各
外務省大臣官房文書課	一
滿鐵上海事務所	一〇
東京研究所	一
上海研究所	一
中華民國法制研究會	一

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるものゝみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

目 次

- 一、管收條例 一 頁
- 二、義勇消防人員撫卹條例 五 頁

管收條例（勾留條例）

（國民政府三十年五月三日
第一百四十一號指令「准予備案」）

第一條 本條例ハ強制執行法第二十六條ニ依リ之ヲ制定ス

第二條 債務者又ハ擔保者ノ拘提（勾引）管收（勾留）ニ對シテハ強制執行法及本條例ニ規定アルヲ除クノ外刑事訴訟法ノ勾引及勾留ノ各條規定ヲ準用ス

第三條 勾引ニハ勾引狀ヲ附フベシ
勾引狀ニハ左記事項ヲ記載シ捺印（判署）又ハ書記官之ニ署名スベシ

- 一 勾引スベキ者ノ姓名、性別及住所
- 二 勾引ノ理由
- 三 出頭スベキ日時及場所

1

第四條 勾引ハ執達吏ニヨリ之ヲ執行ス

第五條 勾留ニハ勾留狀ヲ用フベシ

勾留狀ニハ左記事項ヲ記載シ捺印（判署）又ハ書記官之ニ署名スベシ

- 一 勾留スベキ者ノ姓名、性別及住所
- 二 勾留ノ理由
- 三 勾留スベキ場所

第六條 勾留ヲ執行スルニハ執達吏ヨリ其ノ勾留スベキ人ヲ勾留所ニ送致スベシ送致ヲ受ケタル勾留所々長ハ勾留狀ニ送致ノ年月日時ヲ附記シ且之ニ署名スベシ

第七條 債務者又ハ擔保者ニシテ左記事情ノ一アルトキハ勾留スルコトヲ得ズ其ノ事情ガ勾留後ニ發生シタルトキハ勾留ヲ停止スベシ

2

一 勾留ニ因リ其ノ一家ノ生計ガ維持シ難キ虞アル者
 二 妊娠六月以上又ハ生産後二月未滿ナル者
 三 現ニ疾病ニ罹リ勾留ニ因リ治療シ能ハザル虞ノアル者
 第八條 勾留所ハ單獨ニ設置スベシ未ダ單獨設置ナキトキハ刑幕
 被告ノ勾留場所ト隔離スベシ
 第九條 被勾留者ノ警束（檢束）ハ勾留所ノ秩序ヲ維持スル必要
 アル者ヲ以テ限度トス
 被勾留者ハ自ラ飲食及日用必需品ヲ備ヘ且外人ト面會、通信
 又ハ書籍及其ノ他ノ物件ノ授受ヲ爲スコトヲ得但シ勾留所ハ
 之ヲ監視又ハ檢閲スルコトヲ得
 第十條 勾留所規則ハ各省ノ高等法院ニヨリ制定シ司法行政部ニ
 届出テ審査認可ス
 第十一條 法院ハ隨時被勾留者ヲ訊問スベシ毎月少クトモ二回以下

ナルコトヲ得ズ
 第十二條 勾留情況ノ適當ナリヤ否ヤ法院ハ隨時之ヲ考察又ハ糾正
 スベシ
 第十三條 被勾留者ガ己ニ債務ニ就キ相當ナル擔保ヲ提出シ又ハ勾
 留期限滿了シ若ハ執行完了シタルトキハ直ニ之ヲ釋放スベシ
 第十四條 勾留ニ因リ支出シタル飲食及其ノ他ノ必要費用ハ債務者
 ニ於テ之ヲ負擔ス
 第十五條 各法院ハ毎月末ニ勾留報告書ヲ作製シテ司法行政部ニ報
 告スベシ週クトモ翌月十日ヲ逾ユルコトヲ得ズ
 第十六條 本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

義勇消防人員撫卹條例

(國民政府三十年五月五日
第一百四十四號指令「准予備案」)

第一條 各地ノ義勇消防人員ノ撫卹事項ハ總テ本條例ニ依リ之ヲ處理ス

第二條 本條例ニ稱スル消防人員ハ義勇消防會及分會ノ隊長、分隊長、班長、隊士、司機(運轉手)等總テ之ニ屬ス

第三條 撫卹辦法ハ左記ノ三種ニ分ツ

- 一 一次郵金
- 二 醫藥費
- 三 棺殮費(棺桶、埋葬費)

第四條 一次郵金ハ左記六等ニ分ツ
一等郵金一千元

- 二等郵金八百元
- 三等郵金六百元
- 四等郵金五百元
- 五等郵金四百元
- 六等郵金三百元

第五條 左記事情ノ一ニ依リ證明ヲ經テ事實ニ屬シ其ノ退職ヲ許シタルトキハ一等ノ一次郵金ヲ給與ス

- 一 隊長、分隊長ニシテ五年以上在職シ水火災變ノ救護ニ因リ身体ニ傷損ヲ受ケ之ガ爲廢疾又ハ心神喪失シ職務ニ堪ヘザル者
- 二 班長、隊士、司機ニシテ七年以上在職シ前項事情ノ發生ニ因リ職務ニ堪ヘザル者

第六條 左記事情ノ一ニ依リ證明ヲ經テ事實ニ屬シ其ノ退職ヲ許

可シタルトキハ二等ノ一次郵金ヲ給與ス

一 隊長、分隊長ニシテ四年以上五年未滿在職シ水火災變ノ救護ニ因リ身體ニ傷痕ヲ受ケ之ガ爲廢疾又ハ心神喪失シ職務ニ堪ヘザル者

二 班長、隊士、司機ニシテ五年以上七年未滿在職シ前項事情ノ發生ニ因リ職務ニ堪ヘザル者

可シタルトキハ三等ノ一次郵金ヲ給與ス

一 隊長、分隊長ニシテ三年以上四年未滿在職シ水火災變ノ救護ニ因リ身體ニ傷痕ヲ受ケ之ガ爲廢疾又ハ心神喪失シ職務ニ堪ヘザル者

二 班長、隊士、司機ニシテ四年以上五年未滿在職シ前項

第八條

事情ノ發生ニ因リ職務ニ堪ヘザル者
左記事情ノ一ニ依リ證明ヲ經テ事實ニ屬シ其ノ退職ヲ許シタルトキハ四等ノ一次郵金ヲ給與ス

一 隊長、分隊長ニシテ一年以上三年未滿在職シ水火災變ノ救護ニ因リ身體ニ傷痕ヲ受ケ之ガ爲廢疾又ハ心神喪失シ職務ニ堪ヘザル者

二 班長、隊士、司機ニシテ三年以上四年未滿在職シ前項事情ノ發生ニ因リ職務ニ堪ヘザル者

可シタルトキハ五等ノ一次郵金ヲ給與ス

一 隊長、分隊長ニシテ一年以上二年未滿在職シ水火災變ノ救護ニ因リ身體ニ傷痕ヲ受ケ之ガ爲廢疾又ハ心神喪失シ職務ニ堪ヘザル者



第十條 班長、隊士、司機ニシテ二年以上三年未満在職シ前項事情ノ發生ニ因リ職務ニ堪ヘザル者

一 隊長、分隊長ニシテ一年未満在職シ水火災變ノ救護ニ因リ身體ニ傷損ヲ受ケ之ヲ爲療養又ハ心神喪失シ職務ニ堪ヘザル者

二 班長、隊士、司機ニシテ二年未満在職シ前項事情ノ發生ニ因リ職務ニ堪ヘザル者

第十一條 第五條乃至第十條ノ規定ニ依リ受給者ガ傷損ニ因リ死亡シタルトキ其ノ遺族ハ其ノ遺族ニ於テ之ヲ受領スルコトヲ得

第十二條 遺族ノ受給金受領順序左ノ如シ
一 死亡者ニ配偶アルトキハ其ノ配偶
二 班長、隊士、司機ニシテ二年未満在職シ前項事情ノ發生

二 前號ノ遺族ナキトキハ其ノ未成年ノ子女

但シ成年ナルモ廢疾トナリ其ノ生計ヲ謀ルコト能ハザルトキ亦受領スルコトヲ得

三 以上ノ遺族ナキトキハ其ノ未成年ノ孫子女

四 以上ノ遺族ナキトキハ其ノ父母

五 以上ノ遺族ナキトキハ其ノ祖父母

六 以上ノ遺族ナキトキハ其ノ未成年ノ同父ノ弟妹

第十三條 本條例ニ依リ受給金ヲ受領シ得ル遺族ガ故人アルトキ其ノ郵金ハ平均ニ之ヲ給與スベシ其ノ者ノ中若一人又ハ數人ガ其ノ受領スベキ部分ヲ放棄シタルトキハ該部分ノ郵金ハ總テ其ノ他ノ受領權者ニ分配給與スルコトヲ得

第十四條 撫卹ノ受領申請ハ原服務ノ義勇消防會ニ於テ之ヲ調査シ事實ナルトキハ請領撫卹事實表（郵金申請事實表）ヲ作成シ主管

警察機關ヲ經由警政部ニ移牒シテ許可ヲ受クベシ
其ノ表式ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 一次郵金ヲ受領スルトキハ該人員ノ退職ノ日ヨリ二年内ニ
之ヲ請求セザルトキハ其ノ權利ハ消滅ス

第十六條 遺族ガ受領金ヲ受領スルトキハ該人員ノ死亡ノ日ヨリ二年
内ニ之ヲ請求セザルトキハ其ノ權利ハ消滅ス

第十七條 義勇消防人員ガ水火災變ノ救護ニ因リ傷痕ヲ受ケ入院シテ
治療スルトキハ醫藥費ヲ受領スルコトヲ得其ノ手續ハ第十四條
ノ辦法ニ依リ之ヲ處理スルモノトシ且醫師ノ診斷書及醫院ノ領
收證ヲ添付スベシ

第十八條 義勇消防人員ガ水火災變ノ救護ニ因リ傷痕ヲ受ケ之ガ爲死
亡シタルトキハ遺族ニヨリ受領金ヲ受領スルヲ除クノ外隊長
分隊長ハ一百元以上一百五十元以下其ノ他ノ人員ハ六十元以上

八十元以下ノ棺殮費ヲ給與スルコトヲ得

第十九條 棺殮費ノ受領申請ハ原服務ノ義勇消防會ヨリ主管警察機關
ヲ經由警政部ニ移牒シテ許可ヲ仰グベシ

第二十條 本條例施行細則ハ別ニ之ヲ定ム

第二十一條 本條例ハ認可公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス



華中調查速報第一八八號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯）
民國三十年五月十二日 第一七三號

興亞院華中連絡部

72

REEL No. A-0279

0451

アジア歴史資料センター

發送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、廈門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

登集團參謀長

支那派遣軍總司令部報道部長

中文部派遣憲兵隊司令官

上海憲兵隊長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長

九〇

部

各

部

各

部

各

部

漢口陸軍特務部長

支那方面艦隊參謀長

上海方面海軍根據地隊司令官

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部長

支那方面艦隊報道部長

漢口海軍特務部長

在南京大使館

在上海、南京、漢口、各日本總領事

在江、蘇、皖、浙、各副領事

外務省大臣官房文書課

滿鐵上海事務所

東京研究所

中華民國法制研究會

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

部

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京・上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるものゝみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯、編輯に係る

國民政府主席乘車隨扈辦法

(民國三十年五月二日一三七號指令)
「准予備案」

- 第一條 主席が首都ニ於テ公務ニ因リ乘車外出スル場合ノ其ノ隨行儀式ハ本辦法ノ規定ニ依ル
- 第二條 主席車ノ約一百メートル前方ニハ先驅車(無蓋車)一台ヲ置キ旗ヲ建テテ一名ノ將校ガ衛士若干名ヲ引率シ之ヲ護衛ス
- 第三條 旗ノ樣式附圖ノ如シ(圖省略)
- 第四條 主席車ニハ三角ノ小旗ヲ建ツ其ノ樣式附圖ノ如シ(圖省略)
- 第五條 主席ノ前方及兩側ニハ護衛車(無蓋車)三台ヲ置キ警戒及傳達ノ責ヲ擔任ス

75

- 第六條 主席車ノ後方ニハ隨從車及隨員車若干輛ヲ置キ直接警衛ノ責ニ任ズ
- 第七條 車輻ノ行進順序附圖ノ如シ(圖省略)
- 第八條 中華民國ノ文武官吏及軍人竝ニ一般人民等ニシテ先驅車ノ旗ヲ認メタルトキハ直ニ道路ノ兩側ニ避ケ主席車通過ノ際一律ニ敬意ヲ表スベシ
- 第九條 護衛兵ハ總テ武裝ス其ノ他沿途ノ警衛及儀仗ニ付テハ仍陸軍禮式條例ニ依リ之ヲ處理ス
- 第十條 本辦法ニ未ダ盡サザルノ事項アルトキハ隨時申請シ許可ヲ經テ之ヲ修改スルコトヲ得
- 第十一條 本辦法ハ國民政府認可ノ日ヨリ之ヲ施行ス

華中調查速報第一八九號
昭和十六年五月

國民政府公報抄（邦譯）
民國三十年五月十四日
第一七四號

與亞院華中連絡部

發送先

本院

華北連絡部次長

蒙疆、厦門各連絡部長官

青島出張所長

漢口、廣東、南京、各派遣員事務所長

陸軍參謀次長

支那派遣軍總參謀長

登集國參謀長

支那派遣軍總司令部報道部長

支那派遣憲兵隊司令官

上海憲兵隊長

特務機關本部長

上海、南京、蘇州、杭州、泰縣、蚌埠、安慶、寧波、特務機關長

各

部部部部部部部部部部部部

各 各

九〇

部部

漢口陸軍特務部長

支那方面艦隊參謀長

上海方面海軍根據地隊司令官

海軍上海駐在武官長

第一海軍經理部長

支那方面艦隊報道部長

漢口海軍特務部長

在南京大使館

在上海、南京、漢口、各日本總領事

杭州、九江、蘇州、蕪湖、各副領事

外務省大臣官房文書課

滬鐵上海事務所

東京研究所 上海 東京

中華民國法制研究會

各

部部部部部部部部部部部部

凡 例

- 一 本輯の名稱を華中調査速報とす
- 一 調査速報には國民政府公報及各院、部公報並に江蘇、浙江、安徽、の各省公報及南京、上海兩市公報の邦譯を掲載す
- 一 調査速報の内容は法規に屬するものは原則として全部之を輯録する方針なるも特に速報する價值僅少なりと認めらるゝものは翻譯を省略又訓令以下は重要なるものゝみを摘録す
- 一 調査速報は元來華中調査資料として編輯すべきものなるも速急に報告するを適當と認め「速報」とす
- 一 調査速報は華中連絡部政務局の翻譯・編輯に係る

商品檢驗法

(中華民國三十年五月十日修正公布)

第一條 輸出入商品ニシテ左記行爲ノ一ニ該當セシトキハ本法ニ依リ之ヲ検査ス

一 虛偽ノ事情アルモノ

二 害毒ノ危険アルモノ

三 其ノ質、量、等級ヲ鑑査スベキモノ

第二條 検査ヲ要スベキ商品種類ハ工商部ヨリ之ヲ定ム

第三條 商品検査ハ輸出又ハ輸入スル場所ニ於テ之ヲ行フベシ

但シ特殊事情ニ因リ所在地輸出入商ヲ經テ申請シタルトキハ集散地ニ於テ之ヲ行フコトヲ得

第四條 検査ヲ要スベキ商品ニシテ検査ヲ經テ證書ヲ受領シアルモノ

第五條 ノニ非ザレバ之ヲ輸出又ハ輸入スルコトヲ得ズ

検査ヲ要スベキ外國商品ニシテ出品國政府ノ検査證ヲ所持シアルトキハ平等ニ之ヲ待遇シ以テ適宜ニ検査ヲ免ズルコトヲ得但シ原證書ト符合セザルモノアルヲ發見シタルトキハ仍之ヲ検査スベシ

第六條 各種商品ノ合格規格ハ工商部之ヲ定ム

第七條 商品検査ニ於テ適宜之ガ検査料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率

ハ工商部ヨリ各商品ニ就キ各別ニ之ヲ定ム但シ最高率ハ該商品ノ市價ノ千分ノ三ヲ超ユルコトヲ得ズ

第八條 工商部ハ商品検査ノ場所ニ就キ行政院ノ認可ヲ經テ商品検査局ヲ設立シ検査事務ヲ執行スベシ

第九條 検査ヲ要スベキ商品ハ商人ニ於テ輸出又ハ輸入前ニ所在地ノ商品検査局ニ向ヒ検査ヲ申請スベシ

第十條 商品検査ニ付商品見本ヲ要スベキ場合其ノ数量ハ工商部ヨリ各商品ニ就キ各別ニ之ヲ定ム

第十一條 検査ニ合格シタル商品ハ商品検査局ヨリ證書ヲ交付ス合格セザルトキハ検査書寫シテ添付シテ検査申請者ニ通知スベシ
前項ノ證書ニシテ有効期間ヲ規定スル必要アルトキハ工商部ニヨリ各商品ニ就キ各別ニ之ヲ定ム

第十二條 検査済商品ノ有効期間内ニ於テ原検査申請者ノ請求ニ因リ再検査ヲ一回爲スコトヲ得別ニ検査料ヲ徴收セズ

第十三條 證書ヲ遺失シタルトキハ検査申請者ハ證書ノ再發行ヲ申請スベシ

積載船又ハ包装ヲ變更シタル爲商品ノ品質及數量ニ影響セルトキハ原検査申請者ハ證書ノ書替ヲ申請スベシ但シ總テ理由ヲ聲明シ商品検査局ノ許可ヲ受クベシ

第十四條 本法第九條ノ規定ニ違反シタルトキハ五百元以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 商品検査後ニ於テ擅ニ數量ヲ増減シ又ハ劣等品ヲ混入スルモノアルトキハ三百元以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 商品検査ヲ經テ證書ノ交付ヲ受ケタル後未ダ商品検査局ノ許可ヲ經ズシテ私ニ之ヲ改装シタルトキハ再検査ヲ行フベシ

第十七條 検査官ニシテ商品見本ヲ要スル場合規定數量ヲ超ヘ又ハ検査ノトキ故意ニ無理難題ヲ持出スモノアルトキハ告發ヲ經テ商品検査局ニ於テ之ヲ懲罰ス

第十八條 本法ノ施行細則ハ工商部ヨリ之ヲ定ム

第十九條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス